令和２年度学校だより　学校教育目標「せいいっぱい　きたえ　のびよう　東っ子」

東白川小だより

令和２年 10 月 30 日（金）NO.8

がんばったえんぴつ

東白川小学校長　　伊佐治　晃

「『がんばったえんぴつ』をもってきました。」
そう言って子供たちが校長室のドアをノックします。さて、**「がんばったえんぴつ」**とは何でしょう。短くなって、もう正しい持ち方ができなくなった鉛筆の行き先は引き出しの奥かごみ箱でしょうか。ちょっとかわいそうな気もするので「今までありがとうね」の気持ちを込めて校長室にある容器に集めています。これが「がんばったえんぴつ」です。「がんばったえんぴつ」を持ってきてくれた子には、えんぴつと交換に１枚のカードを渡しています。「がんばりえんぴつ賞」カードです。

↑プリントに名前を書く１年生

さて、校長室に持ってきたら、回収容器の前に置いてあるプリントに学年・名前・本数を記入してもらいます。そこでのちょっとした会話が楽しみの一つです。
「すごく短くなるまで使ったね。何をがんばったのかな？」
「漢字練習をいっぱいしたよ。」
「すごいね。たくさん漢字を覚えることできたかな。」
「おっと、この漢字の書き順を確かめておくといいよ。」
最初は２～４年生の子が多かったのですが、今は１年生の子もよく持ってきてくれるようになりました。
「何をがんばったのかな？」
「ひらがなのれんしゅうをいっぱいしました。」
そう答えながら、ならったばかりのひらがなで、ていねいに自分の名前を書いてくれました。

さて、今日も「『がんばったえんぴつ』を持ってきました！」と、元気よく１年生が校長室を訪れました。もう慣れたものです。自分でプリントの前に行き、学年や名前を書きます。
「おっ、しっかりしたひらがなが書けるようになったね。」
「いっぱいれんしゅうしたから！」
「最初に書いた字と比べてみようか。」
プリントをめくり、最初に書いた名前を探しました。たどたどしく、でも一生懸命に書いたことが分かる名前を発見しました。
「おーっ、これだ。やっぱり上手になったよ。形がとてもよくなった。
たくさん練習したからだね。よくがんばったね。」

↑二つ目になった「がんばったえんぴつ」入れ

短くなったえんぴつは、子供たちが握りしめていた分、少し汚れています。それを見るとえんぴつをぎゅっと握りしめ、一生懸命漢字練習をしたり、計算問題を解いたり、絵を描いたりしている姿が浮かびます。努力の分だけ、子供たちは力をつけ、成長しています。